

Fastly の CDN と Compute@Edge で FUJIMI 公式サイトを強化 テレビCMで約10倍に増えたアクセスに 設定変更なしで対応

美容分析からつくるあなたのためのパーソナライズビューティブランドであるFUJIMIを中心に事業を展開するトリコ株式会社(以下、トリコ)。公式サイトであるfujimi.meに、FastlyのCDN、イメージオブティマイザー、およびCompute@Edgeを採用。キャッシュのヒット率99%以上、キャッシュカバレージ100%を実現するとともに、テレビCMの公開による10倍以上のアクセスの拡大にもサーバー環境の設定を変更することなく対応できる仕組みを実現した。

CDN 導入と Riot.js から Next.js への移行の 2つを目的に Fastly を採用

「私らしい美しさで、私をもっと好きになる」というミッションに基づき運営するFUJIMI (fujimi.me) は、約20~30問の美容に関する設問に答えることで、その分析結果からパーソナライズされたオリジナルのサプリメントやフェイスマスク、プロテインを購入できる公式サイトである。主に30~40代の女性に支持され、アクティブユーザー数は10万ユーザー以上。直近1カ月のページビュー (PV) の平均は、21万PVを超えている。

当初、fujimi.me ではコンテンツ配信ネットワーク (CDN) が導入されていなかった。しかし、2021年6月にタレントを起用したテレビCMの公開が決まったことから、CDNなしのままテレビCMを公開することは、サーバーの負荷増大によるシステム停止のリスクが高かった。また、テレビCMの公開直前の2021年4月に新製品であるプロテインをリリースしていたが、技術的な問題からCDNの導入が必要だった。

Lead Web Engineer の河野純也氏は、「サプリメントとフェイスマスクのアプリケーションは、Riot.jsという少し古いJavaScriptのフレームワークで実装されていたのですが、柔軟な設計になっていないため、そこにプロテインの新規プラットフォームを追加するのは開発体験がよくないと考えました。そこでNext.jsとTypeScriptによるアプリケーション開発に移行したいと思っていました」と話す。

サプリメントとフェイスマスクのアプリケーションをRiot.jsからNext.jsに一気に書き換えると開発とQA (品質保証) に工数がかかってしまう。そこで、別のサーバーでプロテインのアプリケーションを開発しながら、fujimi.meからアクセスできるようにすることが必要だった。河野氏は、「Fastlyであれば、VCL (Varnish Configuration Language)を使うことで、これを実現できると考えました」と話す。

検討の結果、2021年2月にFastlyの採用を決定。採用の理由を河野氏は、「前職でFastlyを使ったことがあるのですが、Fastlyの強みであるVCLを利用した柔軟な設計が可能なることを評価しました。また、新しいアプリケーションをリリースしたときに、キャッシュをパージしなければならないのですが、Fastlyであればインスタントパージで高速にキャッシュをパージできることも採用を決めた理由の1つでした」と話している。



社名: トリコ株式会社

住所: 〒160-0022

東京都新宿区新宿 2-3-15 大橋御苑ビル 5F

URL: <https://tricot-inc.com/>

2018年4月に設立。美容分析によりパーソナライズされたサプリメント、プロテイン、フェイスマスクを提供するビューティブランド「FUJIMI」の事業を展開。

2022年3月には、ルミネ新宿店に初の常設店をオープンした。社名には、お客様に愛されるプロダクトを創り、夢中になってほしいという「虜」と、お客様の声を1つひとつ丁寧に編み上げ、人に寄り添ったプロダクトを創るというフランス語の「tricot (編み物)」の2つの想いが込められている。

テレビCMの公開による10倍以上のアクセスに 設定変更なしに対応

Fastly の導入は、2021年2月から開始され、4月には作業を完了。一方、Riot.js から Next.js への移行は、2021年4月から作業が開始された。河野氏は、「Fastly の導入、実装は1人で行いました。Fastly の導入時には、fujimi.me にひもづいているアプリケーションをいったん切り離すことが必要だったので若干のダウンタイムはありましたが、それ以外は特に問題もなく導入できました」と話す。

一方、プロテインのアプリケーション開発に関しては、2020年1月より約3カ月かけて、4~5名の Web エンジニアが実装した。Fastly 導入当初は、Riot.js で実装されていたサプリメント、およびフェイスマスクのアプリケーションは Google Cloud の App Engine 上で運用されており、新たにNext.js で実装されたプロテインのアプリケーションは Cloud Run 上に実装されていた。その前段に Fastly を配置することで、プロテインのリクエストは Cloud Run に、それ以外は App Engine に振り分ける構成になっていた。

河野氏は、「Fastly 導入後に、サプリメントとフェイスマスクのアプリケーションをベースで少しずつ App Engine から Cloud Run に移行しています。2020年10月に、すべてのアプリケーションの移行が終了した段階で App Engine を切り離し、現在は Cloud Run だけで3つのアプリケーションを運用しています」と話す。

Fastly を導入した効果を河野氏は次のように語る。「キャッシュのヒット率は99.26%で、キャッシュカバレッジは100%です。アベレージでは、ヒット率は 96.48%で、カバレッジは 98.80%。ほとんどのリクエストは Fastly から返せるようになっています。テレビCMを公開したときには、通常の10~12倍のアクセスがありましたが、Cloud Run 上のアプリケーションの設定は変えることなく対応することができました」

また、サプリメント、フェイスマスク、およびプロテインの各製品担当者がそれぞれにマーケティング施策を実施したいという要望があったため、3製品のアプリケーションは分離されているものの、プロテインだけページしたい、フェイスマスクだけページしたいなどの個別の要望に対応できる実装も必要だった。このとき、サロゲートキーを使用してキャッシュオブジェクトにタグ付け、グループ化し、ページ (まとめて削除) できるのも Fastly を採用したメリットの1つだった。

そのほか河野氏は、「現在の Web サイトでは、Core Web Vitals の指標を重視しています。Riot.js のアプリケーションは単なる SPA (Single Page Application) で、初期ローディングが少し遅れてしまうという課題がありました。Next.js では、サーバー上で HTML を作成して配信できるので、初期ローディングが高速になり、ユーザーに高速に画面を返すことができるようになりました」と話す。

1つ問題だったのは、URL を段階的に移行していくときに一気にページを書き換えるのが大変なため、ページごとに書き換える VCL の実装が煩雑になってしまったことである。河野氏は、「カスタム VCL の生成に、Handlebars という JavaScript のテンプレートエンジンを活用し DevOps を加速しています。こうした方法は知り合いのエンジニアに聞いたり、Fastly のブログから情報収集したりして対応しました」と話している。

Compute@Edge で fujimi.me の LP を実装し、今後も利用範囲を拡大

現在、トリコでは Fastly の CDN とイメージオブティマイザー、Compute@Edge を利用している。イメージオブティマイザーは画像のリアルタイムな加工・変換に利用されている。河野氏は、「イメージオブティマイザーを利用するときにコントロール関連の設定について Fastly のサポートに問い合わせをしたのですが、的確な回答が得られたので本当に助かりました。Fastly に関しては、製品もサポートも非常に満足しています」と話す。

一方、Compute@Edge は fujimi.me のランディングページ (LP) の実装に利用されている。fujimi.meのLPを実装するために以前は pr.fujimi.me という URL で展開していたが、fujimi.me のドメインに集約した方が広告メリットも大きいことから、fujimi.me に統合したいという要望があった。しかし、pr.fujimi.me の既存のリンクをどうするかが課題だった。

河野氏は、「App Engine を利用し続けてもよかったのですが、メンテナンスが必要でコストもかかることから、Google Cloud のプロダクトをいくつも運用するのはなるべく避けたいと思っていました。App Engine はなくしたいけど、既存の流入はなくしたくないという判断から Compute@Edge 上で pr.fujimi.me へのリクエストを解析し、どの LP を見に来たのかパスを解析して fujimi.me/lp/ にリダイレクトする処理を実装しています」と話す。

今後の取り組みについて河野氏は、「Compute@Edge は、今後もっと活用していきたいと思っています。たとえば現在、実店舗と fujimi.me での診断ロジックがそれぞれ動いているのですが、この診断ロジックを Compute@Edge 上に集約したいと思っています。診断ロジックを1本化することでメンテナンス性も高くなり、管理もより容易になります。またセキュリティに関してはWAFの導入を計画しており、Fastly の次世代 WAF を検討しています」と話している。



Lead Web Engineer
河野 純也氏

お問い合わせ



✉ japan@fastly.com

🌐 www.fastly.com/jp

🐦 @FastlyJapan

📘 @FastlyEdgeCloudJapan

tricot